

## 会 議 記 録

|                                    |                                                                              |                                                                                                                                                           |
|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会 議 名 称                            |                                                                              | 令和 7 年度健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会                                                                                                                                |
| 日 時                                |                                                                              | 令和 8 年 3 月 27 日（金）午後 6 時 00 分～午後 8 時 02 分                                                                                                                 |
| 場 所                                |                                                                              | 杉並区役所中棟 6 階 第 4 会議室                                                                                                                                       |
| 出席者                                | 委 員                                                                          | 9 名                                                                                                                                                       |
|                                    |                                                                              | 松尾委員、植田委員、高田委員、長崎委員、内田委員、小寺委員、西村委員、野田委員、杉尾委員                                                                                                              |
|                                    | 事 務 局                                                                        | 9 名                                                                                                                                                       |
|                                    |                                                                              | 文化・スポーツ担当部長、スポーツ振興課長、事業係長、計画推進担当係長、施設管理係主査、施設管理係職員、学校支援課長、部活動改革担当係長、杉並区スポーツ振興財団事業係長                                                                       |
| 傍聴者                                |                                                                              | 0 名                                                                                                                                                       |
| 配 付 資 料                            |                                                                              | ・次第<br>資料 1 健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会運営要綱、委員名簿<br>資料 2 健康スポーツライフ杉並プラン 指標の推移<br>資料 3 健康スポーツライフ杉並プラン 主な計画事業の取組内容（令和 7 年度実績、令和 8 年度予定）<br>資料 4 健康スポーツライフ杉並プラン 取組状況 |
| 会 議 次 第                            |                                                                              | 1 挨拶<br>2 令和 7 年度健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会について<br>3 計画の進捗状況<br>4 令和 8 年度の開催予定<br>5 その他                                                                          |
| ＜会議要旨＞                             |                                                                              |                                                                                                                                                           |
| 1 開会                               |                                                                              |                                                                                                                                                           |
| ○事務局 文化・スポーツ担当部長から挨拶               |                                                                              |                                                                                                                                                           |
| 2 議題                               |                                                                              |                                                                                                                                                           |
| 事務局から資料 1 に基づき運営要綱の確認、委員紹介         |                                                                              |                                                                                                                                                           |
| ※進行に当たっては松尾委員にコーディネーター役を依頼し、了承を得た。 |                                                                              |                                                                                                                                                           |
| 事務局から資料 2 及び 3 の取組方針 1 を説明。        |                                                                              |                                                                                                                                                           |
| ○松尾委員                              | 私の方から一つ質問です。部活動の地域連携については、現在、部活動指導員や外部指導者の形で外部から入ってきてもらっている学校もあるという理解で良いですか。 |                                                                                                                                                           |
| ○部活動改革担当係長                         | その通りです。                                                                      |                                                                                                                                                           |
| ○松尾委員                              | 杉並区では、これに加えて拠点校方式及び学校支援本部主体の取組もモデル的に実施しているということですが、区立の中学校は何校ありますか。           |                                                                                                                                                           |

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○部活動改革担当係長 | 23校です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ○松尾委員      | 民間事業者に担ってもらうことは、とても効率的、効果的ですが、財源が必要になると思われます。民間事業者を中心として、23校へ広げていくとすると、国の補助金を活用してやっていくということでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ○部活動改革担当係長 | <p>部活動の地域展開は、純粋な地域人材だけでは到底賄い切れないため、民間事業者も「地域」と捉えて進めていこうと考えています。</p> <p>経費に関してはおっしゃるとおり、民間委託は高額になるため、どの規模で実施するかを検討する必要があります。単独校ではなく拠点校で実施して費用負担を抑えることに加え、受益者負担などについて検討する必要があります。当面は国、東京都などの補助制度を活用しながら実施し、最終的に持続可能な形に着地することを目指しています。</p>                                                                                                                                                                                     |
| ○松尾委員      | 国では、地域クラブ活動の認定と指導者認定について検討しており、どちらも認定を行うのは基礎自治体としています。こうした動きも踏まえて、委員の皆さんからコメントをいただければありがたいです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ○委員        | <p>拠点校である杉森中学校のバスケットボール部について、保護者の方から寄せられた声をお届けできたと思います。拠点校方式を導入する際、まず、保護者と委託業者の役割分担が分からず混乱しました。保護者会が事前に開催されなかったこともあり、内容を知らない状態で事業が進んでしまいましたが、委託業者の方は説明したつもりでいたので、その点が上手いきませんでした。また、委託業者から、引率を行うと区の予算を超過してしまうため、練習時間を削る可能性があるとの話がありました。そのため、保護者が引率を担うことにしましたが、保護者からは、仕事のやりくりに負担が大きいという声や、もし、親の引率が必須になるのであれば、親の都合で子どもを部活に入れられなくなるのは嫌だというようなお話もありました。</p> <p>資料3の中で、民間事業者が大会引率をすると書いてありますが、練習試合についても引率は委託業務内容に入っているのでしょうか。</p> |
| ○部活動改革担当係長 | 入っています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| ○委員        | <p>分かりました。そういうことを保護者が理解できないまま進んでしまっていたので、今後は、事前に保護者会を実施し、委託業者と保護者がそれぞれどこまでの役割を担うのか、分かるようにしていただけるとありがたいです。</p> <p>また、最終的に区が目指しているのは、保護者が参加しない形だと説明を聞いていて思ったのですが、予算や今まで保護者が行っていた部分を誰が担うのかなどについて計画があれば教えてください。</p>                                                                                                                                                                                                             |
| ○学校支援課長    | 私たちも手探りでこの1年をスタートさせたところです。この仕組みについて保護者会で事前に説明をしてきて、その中ではあまり質問がなかった印象でしたが、今お話を伺って、ちょっとした違いが保護者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | <p>の皆さんには気になる点であったと気づき、とても貴重なご意見をいただきました。</p> <p>民間のスポーツ事業者になっても、私たちとしては、保護者が強制されて関わるということではなく、保護者の方々と一緒に作っていきたいと考えています。今はまだ従来の部活動の枠組みもあるため、教員とも一緒に作っていく段階です。そのため、保護者の方にはクラブの様子を見に来ていただき、お気づきの点は、コーチやサポート教員（間接的に、生活指導が必要なときに協力する教員）に伝えていただければ幸いです。保護者も大事なパートナーであり、意思疎通をしっかりとしていきたいと思っています。保護者と教員と事業者と、そして生徒の声を大事にしていきたいため、そういう率直な声を今後もいただきながら、改善していきたいです。</p>                                 |
| ○松尾委員      | <p>やはりこの取組は、説明会などによる相互理解が最も重要ですので、できるだけ事前に説明を実施してほしいところです。これからは、小学校の4～6年生が中学生になるため、その世代に向けた取組も必要になるかもしれないですね。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ○委員        | <p>民間事業者への委託について、予算があるのか疑問で、受益者負担で子どもに負担がかかるのではないかと思います。私は部活動指導員で、年間5,000円程度で指導をしています。クラブなどは月5,000円程度かかると思います。部活をやりたい子どもの中には初心者も多く、何とか教えてあげたいですが、何かあったら指導者の責任が問われます。資料2にある「スポーツボランティアの活動をした人の割合」が7年度は9%と低いように、周りで指導者をやりたいか聞いても、なかなか手を挙げる人がいない状況です。人に教えることは、高齢だと難しいし、様々な研修も受講する必要があるし、そういった点も理由だと思っています。学校ごとの特色に合わせて、学校支援本部型だけでなく、また違った方法があれば、統一しなくても良いと思います。指導者の担い手がいれば、地域展開はどんどん進むと思います。</p> |
| ○松尾委員      | <p>おっしゃるとおり、新たに指導や認定クラブを担っていただけるよう、費用を補助しながら指導士資格を取ってもらうなど、手厚く支援している自治体もあります。先程、「地域移行」から「地域展開」に変わったと説明がありましたが、これは学校の先生方が、「地域に移行すれば自分たちは関係ない」というような感覚を持っては困るということで、「展開」という言葉になりました。学校と地域が一緒になって、そこに行政がしっかり責任を持つという構図があるため、そういった意味でも、保護者の方も一緒になって作っていき、やがては地域の人たちが担えるような仕組みづくりを少しずつ進めていただけるとありがたいです。</p>                                                                                        |
| ○部活動改革担当係長 | <p>学校支援本部型に関しては、確かに担い手の確保が難しいという話と、責任が重いという声を多くいただいているところです。そこで、杉並区では、学校支援本部型は杉並区教育委員会と学校支援本部が共同実施する形にしました。安全管理マニュアルを一緒に作り、区が開催する研修を受講いただき、謝礼金や人件費などの経費の一部を公費で負担するといった支援をしています。学校ごとの地域特性に合った活動ができるよう、支えていきたいと考えています。</p>                                                                                                                                                                      |
| ○松尾委員      | <p>ありがとうございます。杉並区のこの取組というのは、23区の中で</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|            |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | も非常に明確で着実に進められている区の一つだと思います。                                                                                                                                                                                                                        |
| ○委員        | この拠点校方式は、いつ頃から実施しているのでしょうか。                                                                                                                                                                                                                         |
| ○部活動改革担当係長 | 令和7年度からです。                                                                                                                                                                                                                                          |
| ○委員        | 拠点校方式を実施しているのは、区内中学校23校のうち3校のみですか。今後、他の学校でも導入する予定ですか。                                                                                                                                                                                               |
| ○部活動改革担当係長 | 現在は3校のみです。他の学校への導入についても検討しています。                                                                                                                                                                                                                     |
| ○委員        | この3校と一緒に練習をして、この中学校同士が戦うことはあるのですか。                                                                                                                                                                                                                  |
| ○松尾委員      | 中学校体育連盟の大会の規定で、今までは、部活動ごとの出場が基本で、どうしても選手が足りない場合は、二つ合わせた合同部活での出場が許されていたのですが、今は、地域のクラブも認定されれば、中体連の大会に出られるような仕組みになっています。                                                                                                                               |
| ○委員        | 現在、1つの合同部活動として活動している種目は別として、バスケットボール部については、1校ずつ別々の部活動という位置付けなので、戦うことはあります。                                                                                                                                                                          |
| ○委員        | 練習をするに当たって、保護者の方たちが、優秀なコーチを招聘し、保護者会を作って、そのクラブに強くなってもらうために何とか子どもたちのモチベーションを上げて頑張らせたいと思うのは、そこに競技性があるからだと思います。保護者は戦って、勝たせてあげたいし、子どもたちも勝ちたいから練習をします。クラブが、ただ集って和気藹々と活動しているのではなく、本当に強くなりたいと思っている場であることに、少し安心しました。3つのクラブが仲良く同好会のようにやっているのかなというイメージをしていました。 |
| ○松尾委員      | ただ、各校で何人か選抜して強いチームを作ることは適切でないと言われています。競技を一生懸命練習し、切磋琢磨して、その成果を試す場として様々な試合に出るというのが、正しいとされています。                                                                                                                                                        |
| ○委員        | 委託業者のコーチが最初に、子どもたちに、何を目標としてこの部活に入ったのかを聞いていました。子どもたちで話し合って、都大会出場を目標にしたところ、それに合わせた練習メニューを組んでいただき、技術の向上と、楽しく活動することができていると感じます。                                                                                                                         |
| ○委員        | 学校の部活の顧問の先生、クラブのコーチ、子どもたち、保護者と色々な方向を向いている人がいる。3校もあるので、拠点校方式をやっていくのであれば、さらにコミュニケーションを大切にしていかなければいけないと考えます。                                                                                                                                           |
| ○松尾委員      | 受益者負担をどの程度まで求めていくかという議論もありましたが、経済格差がスポーツ体験格差を生んではいけません。これも重要な論点になりそうですね。                                                                                                                                                                            |
| ○委員        | 部活動関連で一つ情報提供させてください。先程、松尾委員から、中体連大会にクラブチームが出場できるという話がありました。出場資格を取るための条件が厳しいのですが、中瀬中学校の野球クラブは資格を得ることができたようです。すでに学校の部活動ではなく、地域                                                                                                                        |

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | <p>の「中瀬クラブ」として、他校に通う選手も入れて活動しています。監督は教員ですが、地域と一緒に運営していくとのことです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ○委員        | <p>クラブチームは学区関係なく、誰でも入れるのでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ○松尾委員      | <p>そうです。クラブチームについては、認定制とすることとしていて、今後、基礎自治体が認定地域クラブ活動の基準を設定し、認めていくという方向です。そのため、中体連はその基準を遵守、尊重しながら、できるだけ認定を得たクラブが中体連大会に出られるようにしたいということですが、今後の動きになると思います。ただし、先程の話のとおり、勝利至上主義で上手い選手を選抜するような形になってはいけないという共通認識を、保護者も含めて持つ必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ○委員        | <p>硬式野球のリトルシニアチームに入る場合など、学校の部活動でなく、クラブチームで活動したい生徒もいますが、その場合は、野球部とクラブチームの掛け持ちは認めていません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ○委員        | <p>財源については、スポーツ振興くじの助成金が来年度、小規模の 300 自治体を対象に、部活動の地域展開に関する新たな制度を試行することになっていて、子どもや家庭の負担を減らそうと国として動いている流れがあります。一方で、教員の過重負担の問題もあり、杉並区でも、教員の成り手がおらず、先生が辞めていくという事象もあると思われるので、例えば、新任の教員は、3 年間は部活と担任の両方を担当する状況は外す等の配慮をしないと、教員が育っていかないと思います。そういう働きかけを各校長にしていかないと、大切な先生たちがいなくなってしまうと思います。</p> <p>学校支援本部型で、私もスポーツアカデミーを財団と一緒に長くやっているのので、スポーツで人を育てるという考え方をぜひ、推奨していただきたいです。地域展開に当たって、アカデミーは 135 名も登録者がいるので、その方々を指導者として地域に配置することを考えていただくと良いと思います。</p> <p>一方、その議論が進むときに、賠償責任の問題もあります。裁判になっている高校の山岳部での雪崩事故の事例など、個人賠償になっていて、スポーツ庁でも、誰が責任を取るのかということの問題としています。法人格を持っていればスポーツ安全保険に入れるのですが、法人格を持っていない団体は、入る保険がありません。杉並の場合は、先程、教育委員会と共同開催で行うという話でしたが、事故があった場合の責任は教育委員会とするのか、あるいは、その賠償には関与しないのかという問題があります。今、任意団体で入れる保険も出てきていますが、それは個人負担で 1 人 400 円などがかかってしまうので、この点をどう考えていくのかということも問題です。</p> <p>また、生徒から、部活動の実施有無や部活動の運営の質などのアンケート評価を取り、それを学校にフィードバックできるような仕組みがあると良いです。様々な形で外部委託等が進められていて、それを子どもたち自身がどう受け止めているのかということを経年で見ながら、民間事業者に対してもフィードバックし、行政の施策としても考えなければいけないと思います。</p> |
| ○部活動改革担当係長 | <p>スポーツアカデミーとの連携は、4 月に 1 回、研修を実施する予定です。スポーツ振興課と一緒に、学校支援本部の方とアカデミーの受</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

講生などを巻き込みながら一緒に行う予定です。

賠償責任については、保険には加入しており、区と学校支援本部の責任分担をしています。

アンケートに関しては、モデル事業では生徒にアンケートをしており、今後広げていく上でも実施していきたいと考えています。

事務局より、資料3の取組方針2を説明。

- 松尾委員      ユニバーサルタイムは、杉並区独自の取組で、全国的にも私は誇るべき取組だと理解しています。その際、先程の部活動の地域展開の話を少し絡めると、特別支援学校や特別支援学級などの子どもたちは、学校に通っていると、別の場所に移動しなければいけないため、学校外での活動がなかなか難しい状況です。このような子たちの参加状況はどうでしょうか。
- 事業係長      子どもたちの参加はかなり少ないです。ユニバーサルタイムは、障害のある方で学校を卒業した方は、スポーツ・運動の機会が激減するため、その方たちをターゲットにしています。ただし、最近は徐々に放課後等デイサービスに通う方の参加が増えてきているので、ニーズはあると思います。
- 松尾委員      もし、放課後デイの活動も地域展開の形で、障害のある生徒さんたちの活動の場になっていけば、非常に重要な取組になると思いました。
- 委員      二つありまして、まず一つは私も関わっているユニバーサルタイムと障害者スポーツネットワークについてですが、やはりユニバーサルタイムは、継続していくことがとても重要と感じました。おそらく障害当事者にこういう場があるということが伝わっていないと思います。障害のある方は、人からの情報や誘いでその機会と楽しさを知り、また行ってみようと思うことが、障害のない方よりも強くあると思います。障害者の分母は少ないですが、だからこそ継続してほしいです。各体育館での開催数が増えることは、とても良いと思います。自転車に乗れない人などもあるので、居住近くの体育館で行われていることは、とても重要なことだと思いました。
- もう一つがデフリンピックについてです。レガシーという言葉がオリンピック・パラリンピックやデフリンピックなどの大きい大会でよく使われると思いますが、やはり大会が終わったら終わりではなく、終わった後もこのレガシーとして何かつながっていくようなことを今後とも計画していただけたらありがたいです。
- 松尾委員      ユニバーサルタイムは新たに永福体育館でも実施したとのことですが、どのくらい広げていく予定ですか。
- 事業係長      目標は区内6か所の体育館で実施したいと考えております。
- 松尾委員      やはり、アクセス問題もあるので、できるだけ多くの場所を実施することですね。
- また、8年度の取組予定の中に「デフ」という文字がないのですが、デフリンピックのレガシーについては、どのようにお考えですか。

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○スポーツ振興財団事業係長 | <p>デフに限らず障害者スポーツの大会があるときは、その応援イベントを企画しようと考えています。今回、デフリンピックを機に、障害や共生社会への理解が進んだと考えています。イベントに 600 人申し込みがあったという話をしましたが、皆さんただデフリンピックを見るためだけではなく、共生社会への思いを持って申し込んで来ていただいたのではと考えています。今後、デフやパラ関係の応援するスポーツにも力を入れていきたいです。</p>                                                              |
| ○松尾委員         | <p>デフスポーツは聴覚に障害がある方のスポーツのため、スタートを光や旗で行います。設備が高価な場合もあるため、自治体の援助がないとなかなか難しい面もあります。こうした取組を含め、みんなでデフスポーツを楽しめるような仕組みができそうな感じがしています。</p>                                                                                                                                               |
| ○事業係長         | <p>スポーツ振興課では、ここに書かれている以外にも、デフの選手と子どもたちの交流事業を行いました。また、先程ご紹介した 3 月 1 日のトークイベントの中で、伊藤選手と亀澤選手から「今まで自分たちの種目で講師として呼ばれたことはあるが、それ以外の種目で子どもたちと一緒に触れ合うイベントがあっても良い」や「自分たちの活動拠点である永福体育館のイベントでしか呼ばれたことがないが、荻窪体育館等でイベントをやっても良いのではないか」という話がありましたので、今後は種目にこだわらず、デフの選手と触れ合う催しができるとう良いと考えています。</p> |
| ○委員           | <p>スポーツ推進委員としては、ユニバーサルタイムのように様々なスポーツのコーナーを設置して、先程お話しがあった放課後等デイサービスの子たちなどが、楽しむための放課後の居場所づくりのようなことができるとう良いと思いました。</p> <p>また、例えば会社員の人に地域の指導者として学校の部活動をお願いするよりも、元教員などで学校の雰囲気がよく分かる人の方が、やりやすいと思います。そういう人材を集めるにはどうしたら良いかと思ひながら、皆さんのお話しを聞いていました。</p>                                    |
| ○松尾委員         | <p>スポーツ推進委員は、全国で 4 万 8,000 人くらいいらっしやって、地域スポーツ振興をどう展開していくかという非常に大きな役目があります。部活動の地域展開の支援について、全国的に模索中と思いますが、ぜひ一緒に取り組み、それがモデルとなって全国に広がっていったら良いと思います。</p>                                                                                                                              |
| ○委員           | <p>部活動支援のことで伺いたひです。一つは、拠点校のクラブについて、実施校以外の 2 校の生徒は移動が必要ですが、安全面はどうか。また、学校の先生より技術を持っている方が教えてくれることが多いと思うが、子どもたちの反応はどうなのかを伺いたひです。</p> <p>もう一つは、富士見丘中学校のマルチ・スポーツクラブの取組は良いと思ひました。今はスポーツの概念が広く、体をつくるためには競技性の高さは必須でないため、ゆるスポーツやレクリエーションスポーツの活動が増えると良いです。</p>                              |
| ○松尾委員         | <p>スポーツ・レクリエーション協会として、このようなマルチ・スポーツへの人材の派遣は可能なのでしょううか。</p>                                                                                                                                                                                                                       |
| ○委員           | <p>まだ組織化できていないので難しいですが、スポーツアカデミーで指</p>                                                                                                                                                                                                                                           |

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         | <p>導者養成をしているので、その人たちをうまくコーディネートできれば、活躍いただけたと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ○松尾委員                   | <p>ありがとうございます。ご質問のあった拠点校に移動する際のアクセス、安全の問題について説明をお願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ○部活動改革担当係長              | <p>自転車での移動を伴うことから、まず一つは、子どもたちが持っているタブレットで、活動場所への出発と到着を登録できるシステムを導入しています。仮に出発してから一定程度時間が経っても到着が登録されていないと、自動的にメールが学校と事業者と区に届くようになっており、その場合、事業者が検索に入れるような体制を組んでいます。</p> <p>もう一つは時間帯について、午後4時から6時で部活動を行うことが多いのですが、開始を15分後ろ倒しにして、安全面を考えてゆっくり移動するよう繰り返し周知しています。</p>                                                                                                |
| ○松尾委員                   | <p>アクセスは非常に大きな問題で、安全・安心という意味において、特に平日は夜暗くなるので、多くの各市町村は対策にまだ踏み込んでいません。杉並区は平日の対策にも既に取り組まれている、非常に先進的な事例だと思いました。</p>                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事務局より、資料3の取組方針3、資料4を説明。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ○委員                     | <p>アカデミーで「はじめてのラケット」という小学生対象の教室に関わっています。小学校では、ラケットなどの道具を使うスポーツの授業は、怪我防止のため学校指導要領になく、実施していません。それは仕方ないことですが、アカデミーなどの場で、道具を使ったスポーツを体験するというのが、子どもたちにとってすごく良い経験になると思います。ラケットを使うテニス、バドミントン、卓球などをもう一度やってみたいと思ってくれるので、非常に良い取組だと思います。どうやって子どもたちに競技系スポーツに興味を持ってもらうかという切実な問題もあるので、区の学校の中でもそういう取組ができると良いと考えます。</p>                                                       |
| ○委員                     | <p>アカデミーについて、今まではスポーツ推進委員などが多く参加されていましたが、最近は新たな層や若い世代の方が増えてきました。スポレク指導者として比較的ハードルを低く打ち出しているため、新規の方も参加しやすいようなので、今後も続けていければと思います。</p> <p>子どものスポーツ応援講座については、方南小学校での活動を他の学校支援本部にも実施してもらおうと広がっていくと思います。区が主体で実施するよりも、支援本部に人材派遣を行うという形に移行していくと良いと考えます。中学生対象の講座については、参加者が少ない状況があります。中学生にスポーツや健康について、違う角度から知ってもらうことはとても大切ですが、コストがかかるため、長い目で見て、行政としても取り組んでもらいたいです。</p> |
| ○松尾委員                   | <p>杉並区の大きな特徴の一つである学校支援本部を中心に動かしていくというお話しでしたが、いかがでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ○学校支援課長                 | <p>学校支援本部も、平成18年から長い間活動を続けているのですが、中心メンバーが固定化していて、なかなか入替えが進んでいません。自</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                       |



|           |                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | <p>分たちのネットワーク内で完結してしまう支援本部もあるので、そういう意味では、新たに部活動を地域展開するというテーマがあることによって、スポーツアカデミーを含め、新しい層の人たちが支援本部に入っただけの良いい機会になると考えています。この枠組みをどう生かしていくかは、私たちも課題と捉えています。</p>                                                           |
| ○委員       | <p>アカデミーの健康相談は、2年前から始まり、肥満傾向の子どもたちに対して、スポーツ推進委員の方々が家でできる運動を紹介するなど、運動の場を処方するような新しい取組です。この子たちが3か月後にどういった行動変容をしているかまでは追えていないので、それができると価値が更に高まると思います。</p>                                                                |
| ○松尾委員     | <p>健康相談もとても重要な取組です。今後、地域スポーツ活動の指導者も区で認定することとなりますので、例えば、ジュニアスポーツ支援講座の中で、中学生の指導者・支援者の養成を行い、これを受けた方を認定するような形で、アカデミーともうまく連動しながら実施できれば、非常に信頼度の高い指導者が増え、その方々も誇りを持って活動できるようになるかもしれないですね。</p> <p>最後に、全体を通して何かご発言はございますか。</p> |
| ○委員       | <p>学校施設の校庭で教室をやった取組について、目的や意図をあらためて教えてください。</p>                                                                                                                                                                      |
| ○計画推進担当係長 | <p>より多くの区民の方がスポーツに親しむ機会の充実を図りたいということで、スポーツ振興課所管の体育施設だけではなく、特に小学校、中学校といった地域に身近な公共施設の運動ができる施設を活用し、学校開放とは別に、地域の方が運動できる機会を作ろうということで実施しました。</p>                                                                           |
| ○委員       | <p>運動するきっかけ作りとしてとても良いと感じました。次のステップとして、この教室参加後、個人でも続けられるような仕掛けがあると更に良いと思います。</p>                                                                                                                                      |
| ○委員       | <p>部活の地域移行に関連して、小学校のスポーツクラブや少年クラブには、多くの地域の指導者が参加しています。そういった団体の方から、クラブ活動の場である小学校の体育館などが、さざんかねっとの予約になり、予約が取れるのかという不安の声をいただきました。こうした地域の指導員がボランティアで教えてくれているスポーツクラブなどが、今後も活動できるよう支援していただきたいです。</p>                        |
| ○松尾委員     | <p>特にこれから、スポーツ少年団もそうですが、地域の子どもたちがクラブを卒団せずに中学生になると、それが部活動の立派な受け皿になっていきます。指導者については、もちろん研修をして、より専門的な方が指導するのが望ましいと思いますが、それが地域の中学生のクラブになっていく仕組みがあります。そうしたクラブの活動場所の確保について、ご示唆いただきました。</p>                                  |
| ○委員       | <p>学校支援本部には色々なところに関わっていますが、様々な取組を限られたスタッフで実施している中で、なかなか部活動支援もやってほしいと言いくいのが現状です。支援本部はボランティアで専門性のないスタッフもいます。そのため、増員をしながら地域と一緒に行うような形を考えています。</p>                                                                       |

○松尾委員

先程のお話しにもあったように、やはりスタッフが固定化していて、過負荷になってしまうため、増員して活性化するというのが、次のステップであると考えます。

○委員

高齢者の方で近所を散歩や走ることが恥ずかしいという人もいて、そういう方が最近よくスポーツジムに通っている印象があります。区健康アプリをこうした民間のスポーツジムなどと連携できると、とても面白いと思います。

スポーツ協会は高齢化していて、後継者がいない点が問題です。若い人にどんどん入ってほしいが、仕事が忙しい状況もあります。男性の育児休暇の取得が増えているように、スポーツに関しても、有休や副業を認める仕組みを国や都でも進めてほしいと思います。担い手を確保するため、そういう方たちを地域でサポートできるような社会になってほしいです。

○松尾委員

経済産業省が健康経営の仕組みを作っていて、そうした取組をしている2万社くらいの企業を奨励しています。スポーツ庁では、スポーツエールカンパニーとしてスポーツを応援する企業を称えていて、1,600社くらいあります。これらの取組として、スポーツ指導者を応援するという企業も出てきています。今年の実施度調査では、企業としてそういう取組をしている方々の実施率は高くなっていて、地域での活躍をしたいという人たちも多い状況です。

3 その他 （事務局から事務連絡（令和8年度の開催予定など））

4 閉会